

平成 24 年度 6 月議会報告②

そして、地域の行政付属機関と、エリア内の各地域協働体が一体となって、住民自治を進めていく形が想定されると考える。

住民の皆さんの自主性に任せるというだけでは、住民自治に対して、関心のある地域は進展するだろうし、そうでない地域は、取り残される。それを放置しておくことは、市内の地域間格差を引き起こすことになり、市としての統一性にかける。」というように、新しい住民自治の形を、地域自治区の設置と地域協働体の再編という形で提言させて頂きました。

2. 持続可能な都市経営について

①サステナブル度について

このサステナブル度は、「環境保全度」、「社会安定度（公正・平等）」、「経済豊かさ度」の3つの側面から90の項目について、都市のサステナブル度つまり、持続可能性を測った調査で、全国の自治体の比較調査の結果より、2007年度、2009年度に続き、今回は3回目の調査の発表となりましたが、その順位が年々落ちていくことについて、意見を申し上げました。

「総合順位では、2009年全国71位だったのが、2011年127位、分野別には、環境保全度では、2009年全国85位だったのが、2011年146位、社会安定度では、2009年全国192位だったのが、2011年426位、経済豊かさ度では、2009年全国78位だったのが、2011年83位、どちらの調査も、軒並みダウンしている。」

この調査結果から、宝塚市の施策について、約20の具体的な処方箋の提示を行いました。

特に東大大学院の大西隆教授は、「サステナブル都市を目指すならば、まず経済基盤をしっかり整えることが欠かせない。現実には厳しいが、自前の産業・雇用政策を確立し、企業誘致や新たな地域産業の創出などに積極的に取り組む必要がある。」

その上で、経済発展の果実を、社会安定の分野に回していく。こうしたサイクルを構築することが、サステナブル都市実現のための正攻法だ。」としていることから、

『経済豊かさ度では、市民一人当たりの所得は高いので、全国の中でも高順位にあるが、長年の産業政策のつけも、回っていて、GRP相当額【農業生産額＋製造品出荷額＋商業年間販売額／補正人口{(屋間人口＋総人口)×1/2}】の比較の中では、全国最下位に近い。

高齢化社会になると、資産はあるものの、給与所得は減る。そして市民税収も減るという流れは、容易に予測され、新たな雇用を生み出す必要がある。

幸いに、市内には、元気な高齢者がたくさんいらっしゃる。

65歳を過ぎて、働きたいが、働く場所がない中、リタイヤしたら、無償ボランティアに来てください。とかすぐ言ってしまうがちであるが、本当は市内で働く場所があれば一番良い。

更に、その仕事が社会にとって公共の利益につながれば尚良い。』と意見を述べさせて頂きました。

そこで、千葉県我孫子市の施策をご紹介します。

『「提案型公共サービス民営化制度」で、これは市で様々行っている事業を、市がやるよりも、NPOや企業でやった方が市民の為になるという事業を、市民から提案をしてもらい、その提案についての可否は、外部専門家・市民・行政の3者構成された委員会で行い、本当に市民の役に立つものであれば、民間に委託するという制度である。

更に、昨年9月の一般質問で、地域ブランドは、産品・観光・住みやすさ・投資の受け入れという4つのターゲット市場を持つ存在であると定義されており、その中で、投資の受け入れについての、視点がこれまでの市政で欠けていたのではないかと申し上げた。元気な市内の高齢者対策・市内産業の創出対策として、そしてコミュニティビジネスの創出について、提案をさせて頂く。

感覚に頼らず、データを取り寄せ、分析し、施策に生かすことが大切だと思う。』

というように、都市経営のあり方は、出来るだけ全分野に平均点以上を取りつつも、得意分野を更に伸ばし

**いとう順一 一般質問の様子は、83.5MHz FM 宝塚で
8月1日(水)13:00～70分間放送予定です。是非お聴きください！**